

正当化された真なる信念は知識か？

エドムント・ゲティア 1963.6

訳 横山信幸 2014.3

与えられた命題を誰かが知るための必要十分条件を述べる試みが、近年さまざまに為されている。その試みはしばしば次のような形式で記述されている。

- (a) SがPを知っているとは、以下のとき、かつ、そのときに限ってである。
- (i) Pは真であり、
 - (ii) SはPと信じていて、
- そして、
- (iii) SがPと信じていることを正当化されている

たとえば、チザムは知識の必要十分条件として以下のものを挙げている。

- (b) SがPを知っているとは、以下のとき、かつ、そのときに限ってである。
- (i) SがPを受け入れ、
 - (ii) SはPのための十分な根拠を有し、
- そして
- (iii) Pは真である

エイヤーは知識の必要十分条件を次のように述べている。

- (c) SがPを知っているとは、以下のとき、かつ、そのときに限ってである。
- (i) Pは真であり、
 - (ii) SはPが真であることを確認しており、
- そして、
- (iii) SはPが真であることを確認することができる

(a) の条件は「SがPを知っている」という命題が真であるための十分条件を為さないもので、私は (a) は偽だと主張する。「十分な根拠を有し」や「それを確認することができる」という文言をすべて「その信念が正当化される」という文言と置き換えると、同様の主張は (b) と (c) の失敗を示す。

私は次の2点に注目するところから始めなければならない。1つ目は「正当化」の意味についてである。SのPに対する信念を正当化することがSのPを知っていることの必要条件であるということについての、正当化の意味であり、実際には偽であるような命題に対する信念の正当化が、ある人にとって可能であるような場合の、正当化の意味である。2つ目はいくつかの命題Pについてである。SがPを信じていることが正当化されていて、PがQを必要とするならば、PからQが導かれる。それゆえ、Qを結果として認める。そうすると、SはQを信じるのが正当化されることになる、ということについてである。こ

これらの2つのポイントを心に留めておいて、(a)に記された条件がいくつかの命題において真になるような、しかし同時に、問題の人がその命題を知っているということが偽になるような2つのケースを、今から提示しよう。

ケースⅠ：

スミスとジョーンズがある就職採用に応募しているとする。そして、スミスは次の命題の論理積について強力な証拠をもっているとする。

(d) ジョーンズは採用され、かつ、ジョーンズはポケットに10枚の硬貨を持っている。

スミスの持っている(d)の証拠というのは、ジョーンズが最終的に選択されると会社の社長が請け負ったことにしてもよい。そして、スミスがジョーンズのポケットの硬貨を10分前に数えたことにしてもよい。そして、命題(d)から次の命題を導く。

(e) 採用される人はポケットに10枚の硬貨を持っている。

スミスが(d)から(e)を演繹したとしよう。そして、強力な証拠を持つ(d)を根拠としてさらに(e)を受け入れたとする。このケースで、スミスは(e)が真であるとする信念をはっきりと正当化している。

ところが、さらにこんな想像をしてほしい。スミスは自分で知らなかったのだが、採用されたのは、ジョーンズではなく、彼自身だったのだ。そしてまた、スミスは自分で知らなかったのだが、彼はポケットに10枚の硬貨を持っていたのである。これで、スミスが推論のもとにした命題(d)が真でないのに、命題(e)が真になることになる。これはおかしい。このとき、私たちの例示において、次のすべては真である。(1)(e)は真であり、(2)スミスは(e)が真だと信じており、(3)スミスは(d)が真だと信じていることが正当化されている。しかし、(e)が真だということをスミスが知っていないことも、同様に明らかである。(e)はスミスのポケットの硬貨の枚数によって真である。しかし、スミスは自分のポケットに何枚の硬貨があるかを知らず、(e)がジョーンズのポケットの硬貨の枚数で決まるという信念を持っており、誰が採用されるか誤って信じているのである。

ケースⅡ：

スミスは次の命題について強力な証拠をもっているとする。

(f) ジョーンズはフォード車を所有している。

スミスの持っている証拠というのは、ジョーンズがスミスの記憶の内のすべてで車を所有しており、それが常にフォード車であったし、ジョーンズがフォードを運転してスミスに乗せたこともある。そこで想像してみよう。今、スミスには、何処にいるか所在が完全に不明な別の友人ブラウンがいる。スミスは3つの場所の名前から1つをまったくランダムに選び、次の3つの命題を構成する。

(g) ジョーンズがフォード車を所有しているか、ブラウンがボストンにいるかのい

ずれかである。

(h) ジョーンズがフォード車を所有しているか、ブラウンがバルセロナにいるかのいずれかである。

(i) ジョーンズがフォード車を所有しているか、ブラウンがブレストリトフスクにいるかのいずれかである。

これらの命題はどれも (f) から導かれる。そこで、こう考えよ。スミスは、(f) から構成したこれらの命題の一つ一つからの演繹を実現させ、(f) の基盤のもとに (g) (h) (i) が導かれることを受け入れる。スミスは彼が強力な証拠を持っている命題から (g) (h) (i) を正しく推論しているのだ。スミスはそのため、これら3つの命題の信念をどれも完全に正当化している。もちろん、ブラウンがどこにいるかスミスは知らない。

しかし、さらに2つの条件が成立すると想像してみよ。1つ目は、ジョーンズがレンタカーを運転しているだけで、フォード車を所有していないということ。そして、2つ目は、完全に何も知らないスミスが命題 (h) を言及したとき、完全な偶然で、その場所に実際にブラウンがそこにいるということ。もしこれら2つの条件が成立するならば、(1) たとえ (h) が真でも、(2) スミスが (h) の真を信じていても、(3) スミスの (h) の真についての信念が正当化されていたとしても、スミスは (h) が真であることを知らないのだ。

これら2つの例は、(a) が、誰かが与えられた命題を知っているというための十分条件を為していないことを示している。同じ例で、適切な変更をすれば、定義 (b) も定義 (c) も同様に十分条件を為さないことを示すのに十分であろう。

<http://sets.cocolog-nifty.com/blog/2014/03/4-93ae.html>

穏健な基礎付け主義とゲティア問題<意味の意味 4>独今論者のカップ麺